

ビジネスの中核を担うシステムをNEC Cloud IaaSへ移行 NECのトータルサポート力を評価

日本全国で牛乳や乳製品といった食品の卸売業を展開する明治フレッシュネットワーク株式会社様（以下、明治フレッシュネットワーク様）。経営の効率化を目指す同社は、ITシステムの効率化とスピードアップのため、クラウドの活用を決断しました。採用したのは、NECのクラウド基盤サービス「NEC Cloud IaaS」です。単に基盤サービス（IaaS）を提供するだけでなく、システムの改修や移行、運用までを任せられるNECの総合力が採用の決め手となりました。段階的な移行プロジェクトは、現在も進行中ですが、わずか5名の運用体制で対応できる上、移行完了後は5年間でトータルコストを約2割削減できると見込んでいます。

お客様プロフィール

名 称 明治フレッシュネットワーク株式会社
所在地 東京都墨田区太平二丁目9番4号 明治錦糸町ビル4階
U R L <http://www.meiji-fn.com/>



明治フレッシュネットワーク株式会社
管理本部
情報システム部
企画グループ
倉持 篤司 氏



明治フレッシュネットワーク株式会社
管理本部
情報システム部
運用グループ
黒澤 浩史 氏

「競争を勝ち抜くために、当社は従来からの強みであった『地域密着型営業』をさらに徹底。小売店様に市場動向や商品に関するきめ細かな情報を提供するなどして、販売力の強化を目指しています。経営の効率化は、そのための余力を生み出す重要な取り組みです」と同社の倉持 篤司氏は話します。

当然、効率化の対象はITにも及んでいます。具体的には、グループ各社の統合を機に、それぞれが運用していたシステムも統合してデータセンターに集約。より少ない人員とコストで運用できる『コンパクト』なIT環境を志向しています。

このIT環境の効率化に向けた取り組みをさらに加速するために、同社が決断したのがクラウドサービスの活用です。

「システム基盤に外部のクラウドサービスを利用すれば、当社はサーバなどの資産を保有する必要がなくなります。サーバの更改や増強時の構築作業、インフラ監視やハードウェア障害への対応といった運用負荷を軽減でき、効率化をさらに加速できます」と同社の黒澤 浩史氏は言います。

販売力を強化するために ITシステムの効率化とスピードアップを目指す

明治グループの販売会社の統合によって新たに誕生した明治フレッシュネットワーク様。新鮮で高品質な牛乳・乳製品などを扱う食品卸売会社として明治グループの販売力を担っています。

現在、食品卸売業界は、業界再編を経て巨大化した「メガ卸」の台頭によって競争が激化。品質の高いサービスの実現とさらなる経営の効率化が重要な課題となっています。

クラウド基盤サービスから 移行作業までをトータルでカバー

同社がクラウドへの移行対象としたのは、販売実績を管理する「販売データ分析システム」及び、商品の在庫・出入庫管理を行う「WMS（倉庫管理）システム」、そしてオンライン受発注や受払、債権債務を管理する「基幹システム」という、まさに同社の業務の核となるシステム群です。

「当社のビジネスの根幹を支えるシステムだけに、当然、クラウド基盤サービスの選定は慎重にならざるをえません。

サービス自体の信頼性はもちろん、システムの移行作業などまで、どれだけトータルなサポートが期待できるかという点を重視しました」と倉持氏は語ります。

そこで、新たなシステム基盤として同社が選択したのがNECのクラウド基盤サービス「NEC Cloud IaaS」です。

同社はクラウドへの移行にあたって、UNIXからLinuxへとサーバOSの移行を予定しており、システムの改修・移行にも同時に対応する必要がありました。しかし、IaaSを提供する事業者と、システムの改修・移行に携わるインテグレーターを別々に選定した場合、システムにトラブルが発生した際の責任の所在があいまいになったり、問い合わせ窓口が分散してしまうというリスクがあります。

「その点、NECなら、サービスの提供からシステムの改修、移行作業、さらには運用管理までワンストップで対応可能。当社の要望に最適なパートナーだと判断しました。実際、クラウド移行時の具体的な作業プロセスやコスト面などで、きめ細かいアドバイスをもらえ安心感がありました」(黒澤氏)。

約1年半という短期間のうちに 3つのシステムを段階的に移行

今回のプロジェクトは、約1年半という短期間で前述した3つのシステムを段階的にクラウドに移行する計画となっています(図)。

本年10月に本格稼働を開始した「販売データ分析システ

ム」に続き、「WMS(倉庫管理)システム」「基幹システム」の順にNEC Cloud IaaS上に移行していきます。

NEC Cloud IaaSには、コストパフォーマンスに優れた「スタンダード(STD)」と、高性能・高信頼を特長とする「ハイアベイラビリティ(HA)」の2つのサービスが用意されていますが、今回、明治フレッシュネットワーク様は、システムの重要性を加味してHAサービスを採用しました。

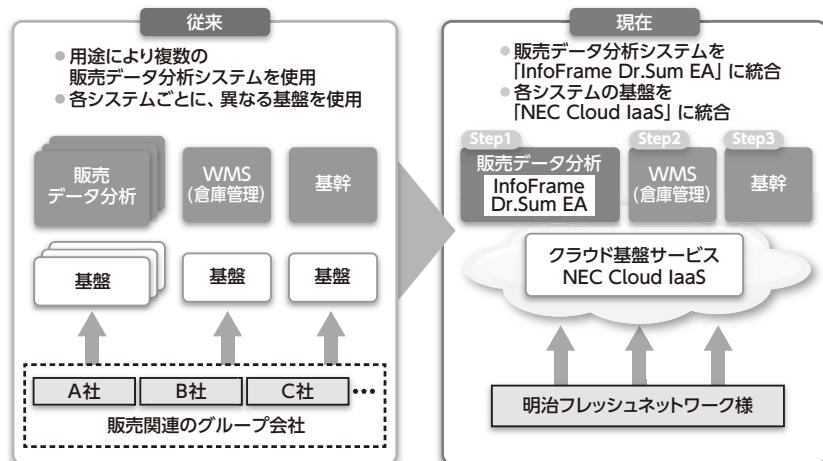
また、NEC Cloud IaaSのコストパフォーマンス、リソースを自由に増減できること、必要な場合にはハウジング環境も含めて利用できることなどのメリットを評価し、採用を決断されました。

また、BIツールには「InfoFrame Dr.Sum EA」を採用しています。膨大な販売データを高速に処理できる高いパフォーマンスと分析の自由度を評価した結果です。

これにより同社の営業担当者を中心とする約1,000名のユーザーが、数億件規模の販売データを高速かつ柔軟に分析可能に。お得意先店舗の商圈特性などを分析し、潜在ニーズを導き出すことで、地域のお客様のライフスタイルに合わせて、「どの商品を」「どのタイミングで」「どのように」販売していただくとよいかご提案するなど、営業活動などに役立てられる環境が整いました。

NEC Cloud IaaSへの移行によって トータルコストを2割削減

NEC Cloud IaaSを活用することで、同社はITシステム



グループ各社が運用していたシステムを統合。3つのシステムをクラウド基盤サービス「NEC Cloud IaaS」に移行して、システムのコンパクト化、スピードアップ、運用工数の削減などを実現した。

図 明治フレッシュネットワーク様のシステム統合イメージ

のさらなる効率化を実現しました。

「これまで大変だったサーバの監視やシステムトラブルへの対処、数年ごとのハードウェア更改などに関して、『何もしなくていい』状態になりました。現在の運用担当者は、わずか5名。この体制でシステムを安心して運用できるのは、NEC Cloud IaaSに移行したからにはほかなりません」と倉持氏は言います。

コスト削減にも大きな期待が寄せられています。NEC Cloud IaaSへの移行によって、サーバやストレージなどの初期導入コスト、運用にかかるトータルコストは、今後5年間で約2割削減できる見込みです。

さらにクラウドならではの拡張性にもメリットを感じています。「ビジネスの成長に合わせてサーバリソースを柔軟に増強できる点は非常に魅力。移行作業中のWMS（倉庫管理）システムや基幹システムの開発テスト用に、サーバリソースを急遽調達した際に、その早さを目の当たりにして、メリットを改めて実感しました」（黒澤氏）。

加えて、NEC Cloud IaaSの性能とInfoFrame Dr.Sum EAとの相乗効果によって、データ分析に掛かる時間が劇的に短縮されました。「例えば、年間販売実績の帳票データ抽出を、従来の10分の一以下の時間で行えるようになりました。営業担当者は、より効率的に地域・お客様別など、さまざまな視点の分析レポートを作成でき、販売力の強化につながります」と黒澤氏は強調します。

BCPや情報活用力の強化に向けた提案にも期待

NEC Cloud IaaSへの移行プロジェクトは、現在も継続中ですが、同社は並行してBCPの強化にも取り組む考えです。

「当社のような、賞味期限を基にした鮮度管理が重要であるチルド食品を扱う企業にとって、WMS（倉庫管理）システムや基幹システムの24時間365日無停止稼働は絶対条件。NECのデータセンターを活用し、安心・安全かつ効率的なバックアップ体制を構築していきたいですね」と黒澤氏は話します。

また、InfoFrame Dr.Sum EAを活用して、情報活用力の向上にも積極的に取り組んでいきます。

「大量の販売実績データの高速分析をベースに、モバイルで各種データを閲覧できるようにするほか、新たな切り口での分析を加えて、より付加価値の高いデータ活用を実現したいと考えています。もちろんNECには、我々のニーズを汲ん

ださらなる提案やサポートを期待しています」と倉持氏。こうした期待に応えるためにも、NECは持ち前の技術力とさまざまなソリューションを駆使して、同社のビジネスを強力に支えていく構えです。

*本稿はお客様への取材をもとに2014年11月に作成したものです。

*本稿に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

問い合わせ先

NEC サービスデリバリ事業部 インフォメーションデスク

Eメール : info@ebiz.jp.nec.com

URL : <http://jpn.nec.com/cloud/>

NEC 技報のご案内

NEC技報の論文をご覧いただきありがとうございます。
ご興味がありましたら、関連する他の論文もご一読ください。

NEC技報WEBサイトはこちら

NEC技報(日本語)

NEC Technical Journal(英語)

Vol.67 No.2 ICTシステムを担うこれからのクラウド基盤特集

ICTシステムを担うこれからのクラウド基盤特集によせて
NECのクラウド基盤への取り組み

◇ 特集論文

NEC C&Cクラウド基盤 NEC Cloud IaaSのサービス

マルチ環境統合を実現するポータルサービス
多用途環境に対応するハイブリッド型サーバーサービス
多様なネットワーク環境を提供するネットワークサービス
内部統制手法を活用した堅牢なセキュリティサービス
クラウド基盤を支えるデータセンターサービス

NEC C&Cクラウド基盤を支える製品、最新技術

運用の自動化によりトータルコストを最適化する「WebSAM vDC Automation」
運用自動化により効率的な管理を実現する統合運用管理基盤
データセンターのTCO削減に貢献するマイクロモジュラーサーバー及び相変化冷却機構
クラウド環境に適した高信頼基盤を提供するiStorage M5000
データ保存に最適な、優れた圧縮効率と高速性を両立するiStorage HSシリーズ
大規模データセンターの管理自動化をサポートするSDN対応製品 UNIVERGE PFシリーズ
省電力を実現する相変化冷却技術・熱輸送技術

NEC C&Cクラウド基盤の将来技術

低コスト・省電力・低フットプリントを実現するアクセラレータ活用技術
スケールアップにより多種多様なコンピューティングを実現するResource Disaggregated Platform
クラウド環境を対象にしたモデルベース設計支援技術
モデルベースでのサイジングと構成管理によりクラウド上のSIを効率化するクラウド型SI
ビッグデータ分析とクラウド～異常を見抜くインパリヤント分析技術～

導入事例

クラウドで遠隔監視保守システムの安定稼働を実現 全国約1,100基のタワーパーキングの安全を支える
ビジネスの中核を担うシステムをNEC Cloud IaaSへ移行 NECのトータルサポート力を評価
クラウド基盤サービスでグループのIT環境を共通化 ITガバナンスのさらなる強化を目指す

◇ NEC Information

C&Cユーザーフォーラム &iExpo2014

Orchestrating a brighter world 世界の想いを、未来へつなげる。

基調講演

展示会報告

NEWS

2014年度C&C賞表彰式典開催



Vol.67 No.2
(2015年3月)

特集TOP